

になりますと、御堂の様な中に泊るのですが、このお堂と申すのは、いく百せん年のその昔、この國の信心深い婦人達がこれらの神様の御利益のため、この神社に参詣する後々の順禮や、旅人の旅行をいく分か安樂になしたいと云ふ願望で、建立したのであります。それで、この旅行は難儀なことは、随分難儀ではありませうけれども、平生毎日く々の同様な、單調な生活を離れて新奇な状態に遭遇し、何程か、心目を喜ばしめるのでございませうから凡ての旅人のためには、まことに結構な、面白い、そうして健全な経験でございませう。ですから、病人も次第に快よくなりはじめまして、一行がお宮に着いて、禮拜いたし、清淨にせられて、貢物を獻げ、神官が悪魔を追拂ふ頃には、もう、全く快癒いたします。そこで、この巡禮の

一行は、その念願を成就いたしましたして、喜んで歸途につきまますが、その家族では、この巡禮で以て、誓願を完ふし、過罪を贖つたことなるのでございませう。そうして、又この一小巡禮旅行は、そののちいつくまでも、事にふれ、折に臨んでは、持ち出される話の種となるのです。(つづく)

時鳥ほとゝぎす迎あけにけり

玄關

和歌子

玄關は家のうちで、第一番に多くの人の目に觸るゝところとございませう。私はこれまで随分いろいろの玄關を見ました。

ある家のは、誠によく整頓して居りまして、拭掃除もよくゆきととき、只こゝでおとなふだけで

も、心持がよい位でござりました。

ある家のは、障子の紙は破れて居り、式臺の隅には塵がたまり、下駄は澤山縦横にぬぎすて、ございました。

ある家のは、式臺や疊のところはきれいでござりますが、今朝掃きすてたらしい塵が土間にちらばり、上を揚げば、蜘蛛の巣が張つて居りました。

右は最も著しいものでござりますが、其外一々申しますと、随分さま／＼でござります。併し要するに、玄關には整頓と清潔の二が必要であるといふことをさとりました。

又取次は、玄關のつきものでござりますが、急いで立ち寄つた時などに、いくら案内を乞うてもきこえず、永く立たせられるなどは、随分じれつたくなりす。又譯の分らなさそうな人が出て、

應對されるには、どうも不安心な心持がいたしす。又遠來をねぎらひがほに、愉快に取次をしてくれると、一寸の事ではござりますが、うれしく感じます。又取次人の無作法なのは、無論見苦しいものでござります。とにかく取次はなるべく早く、確に、親切に、そうしてしとやかにありたいものでござります。

夏山の遠き楢の涼しさを

のなかの水の縁にぞ見る

今昔 いろは料理

(は) 石井泰次郎寄稿

● 早泡雪の拵へやう

鶏卵のよろしきを、五ツ井のなかにこわし入るべし、但し白身のみを別に入る、黄味は殻